

◆平成一七年度日本留学フェア実施報告

【マレーシア】

日 時：クアラルンプール

平成一七年八月二〇日(土) 一一：〇〇～一九：〇〇

ジョホールバル

平成一七年八月二二日(月) 一一：〇〇～一八：〇〇

会 場：クアラルンプール Mid Valley Exhibition Centre

ジョホールバル JB Convention & Exhibition Centre

主 催：独立行政法人日本学生支援機構

マレーシア元留日学生協会(JAGAM: Japan

Graduates' Association of Malaysia)

後 援：在マレーシア日本国大使館

マレーシア東方政策日本留学同窓会(ALEP

S: Alumni Look-East Policy Society)

来場者数：合計 一三二六名(昨年六一九八名)

内訳 クアラルンプール 一五六六名

ジョホールバル 七五〇名

マレーシアにおける日本留学フェアは、今回で一四回目の開催となった。ジョホールバルでは、日本の大学等の参加によるフェアとしては初めての開催となった。



マレーシア会場大学ブース

クアラルンプール会場には、マレー系、インド系、中華系の学生がバランスよく訪れ、奨学金の質問をはじめ、工学系の大学院や英語で学位取得可能な大学に関する質問が多く寄せられた。一方ジョホールバル会場の来場者は、そのほとんどが中華系の高校生で、学部に関する質問が多数であったが、日本の大学院を希望するマレーシア工科大学生や、シンガポールで学ぶ学生も見受けられた。両会場通して日本のアニメ

ーションや自動車に関する質問も多く寄せられた。ジョホールバルでの初開催ということもあり、来場者数は必ずしも多いとは言えないが、日本留学を具体的に考えている来場者が例年より多く見受けられた。

◆平成一七年度日本留学フェア実施報告

【韓国】

日 時：釜山

平成一七年九月二日(金) 一一：三〇～一九：〇〇

ソウル

平成一七年九月四日(日) 一〇：三〇～一八：〇〇

会 場：釜山 Hotel Lotte Busan、ソウル Central City

主 催：独立行政法人日本学生支援機構

共 催：財団法人日本語教育振興協会、韓国日本留学者聯合会、全国専修学校各種学校総連合会、社団法人

韓日協会、社団法人東京都専修学校各種学校協会

社団法人釜山韓日交流センター

後 援：在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館

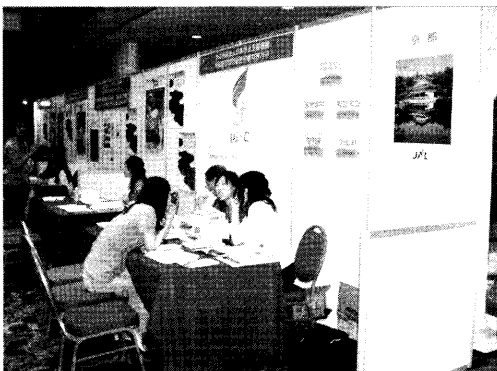
来場者数：合計 四〇一五名(昨年三八九一名)

内訳 釜山 一三三二名

ソウル 二七八三名

今年度より本機構の主催で他五団体との共催により大学、専門学校及び日本語学校併せて一三四機関の参加という大規模なフェアとなった。総来場者数は、昨年を超え、どのブースも多くの面談者で活気に満ちていた。総じて、日本に対して高い関心を有しており、好意的であることが窺えた。

また、今年の留学フェアは、日韓国交正常化四〇周年を迎え「日韓友情年」記念事業として日韓両国民のさらなる相互理解と友情を深めることをめざす事業として認定を受けた。



韓国会場

◆東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会

主 催：国立大学法人保健管理施設協議会、独立行政法人
日本学生支援機構、国立大学法人三重大学
協 力：文部科学省

開催日時：平成一七年九月二十九日（木）～三十日（金）
会 場：ホテルグリーンパーク津
参加者数：七九名
・平成一七年度は地区開催となっており、全国七地区で開催される。



・共通テーマは「変革期を迎えた大学運営とメンタルヘルス支援」
・一日目は桜クリニック院長笠原嘉先生による「大学保健管理センターにいた頃を思い出して」と題した基調講演に始まり、その後五つの分科会に分かれて活発な意見交換・討議が行われた。
・二日目は一日目に引き続き分科会、続いて全体会議が行われた。

◆九州地区メンタルヘルス研究協議会

主 催：国立大学法人保健管理施設協議会、独立行政法人
日本学生支援機構、国立大学法人佐賀大学
協 力：文部科学省

・意見交換・討議が行われた。
・二日目は一日目に引き続き分科会、続いて分科会シェアリングが行われた。

開催日時：平成一七年一〇月二三日（木）～二四日（金）
会 場：はがくれ荘
参加者数：六九名

・平成一七年度は地区開催となっており、全国七地区で開催される。
・共通テーマは「変革期を迎えた大学運営とメンタルヘルス支援」

・一日目は九州産業大学峰松修教授による「大学教育とメンタルヘルス」と題した基調講演に始まり、その後の分科会は五つの会場に分かれて活発

